



| 日時  | タイトル名  | 場所・座席            | 料金  | チケット<br>発売場所  | 未就<br>学児 |
|---|--|------------------|---|---|----------|
| 8/22<br>(土)   | 開演 14:00<br>(開場 13:30)<br>奈良フィルサロンコンサート vol.132<br>音楽の土曜日 ～きらめく木管五重奏～              | レプションホール<br>全席自由 | 2,000 円<br><ワンドリンク付>  | 発売中<br>[ホ]  | ×        |
| 出演：笠井詠子(フルート)、大門玲子(オーボエ)、加藤有香里(ホルン)、笠井裕正(クラリネット)、吉田文字(ファゴット)<br>曲目：五つの小品/J.イベール、木管五重奏曲ト短調/P.タファネル、映画音楽メドレー ほか   |  |                  |   |   |          |
| 10/18<br>(日)  | 開演 14:00<br>(開場 13:30)<br>松本真理子ファミリーコンサート'15<br>「この響きの中で」<br>～松本真理子プロ活動45周年・心を寄せて～ | 大ホール<br>全席自由     | 2,500 円(3,000 円)<br>学生 1,500 円(当日とも)  | 発売中<br>[ホ][口][e+]                                   | ×        |
| 出演：松本真理子(マリンバ・企画・構成・司会)、植村伸子(ピアノ)、アンサンブル“テトラ”、ボーカルグループ“ラ・ポール”、飯田憲司SAXアンサンブル、マリコマリンバファミリー 曲目：マリンバ・ラグ・ファンタスマ/東枝達郎、心から心へ/飯田憲司(構成・編曲)、ミュージカルナンバーより(委嘱初演)/飯田憲司、かんだーびれ(委嘱初演)/水野直美(構成・編曲) ほか |  |                  |   |   |          |
| 10/23<br>(金)  | 開演 19:00<br>(開場 18:30)<br>浦嶋 左織 ジャズコンサート<br>～やまと郡山城ホール“NEXT”シリーズ vol.2～            | 小ホール<br>全席指定     | 5,000 円<br>(5,500 円)  | 発売中<br>[ホ][口][e+]                                   | ×        |
| 奈良県出身、ジャズ界の若手実力派シンデレラガールが世界に向けて羽ばたく。出演：浦嶋左織、ビッグツリー  |  |                  |   |   |          |
| 11/7<br>(土)   | 開演 14:00<br>(開場 13:30)<br>宝くじ文化公演 劇団東少 ミュージカル 白雪姫                                  | 大ホール<br>全席指定     | 一般 1,000 円(1,500 円)<br>高校生以下 500 円(700 円)<br>(宝くじの助成による特別料金)<br>※3歳以上有料、3歳未満でも席が必要な場合は有料<br>※前売り完売の場合、当日券なし | 8/8(土)<br>10:00～発売<br>(初日電話予約は13:00～)<br>[ホ][口][e+] | ○        |

※チケット欄の記号=発売場所 [ホ]:やまと郡山城ホール窓口 [び]:チケットぴあ [口]:ローソンチケット [e+]:イープラス

平成 27 年度  
マリンバ教室  
受講生募集

日時=9月17日から平成28年3月3日までの木曜、17時～18時(全22回)  
※平成28年3月6日(日)発表会と3月5日(土)前日リハーサルもあり  
場所=やまと郡山城ホールリハーサル室ほか  
対象・定員=市内の小学3～6年生、20人 講師=松本真理子さん  
受講料=5,000円 ※練習用のマリンバとマレットが必要です(代金は1万円程度)  
申込・問合せ=8月20日(木)9時から、やまと郡山城ホール事務所(☎54-8000)で受付(先着順)



市長てくてく城下町 126

1 歩ずつ、1 歩ずつ

大和市長 上田 清

今年は『鬼平犯科帳』や『剣客(けんかく) 商売』で有名な池波正太郎さんの没後25年ということもあり、ちょっとしたブームになっているようですが、私自身もこの5月の連休のころからどっぷりと池波ワールドにはまってしまいました。

江戸を舞台にした人情話で、善をすすめ、悪をこらしめるといった作品とはどこか違う味わい深い物語に感動するとともに、季節感あふれる料理があちこちに散りばめられていて、より一層物語を豊かにしています。

もちろん冷暖房のない時代、夏はどんなに暑かったことでしょうか。冬の寒さもこたえたはずです。雨が降れば舗装などされていない道という道はたちまちぬかるみになってしまいますが、高下駄を履いて歩くのが精一杯でした。

そんな江戸のまちを登場人物たちは歩くこと、歩くこと。片道2里や3里(8～12km)は平気ですし、

当時、東海道を旅する人たちは1日に10里(40km)前後も歩いたというから驚きです。

足の不自由な人たちには駕籠かきという手段もあり、また、たくさんの川があった江戸では舟も重要な役割を果たしていたようです。

ところで今から10数年前、散歩しながらふと思いついたのが「100万歩手帳」でした。

1日1万歩はちょっとしんどいけれど、3,000歩なら何とかできるし、1年間続ければ何と100万歩!

ということで、平成15年に『すこやか100万歩手帳』が誕生したのですが、平成26年度は3,571冊のご利用がありました。100万歩以上の達成者は140人。最高は何と1,000万歩だったそうです。

昨年、市制施行60周年を記念しリニューアルした手帳には日本地図が掲載されています。

さて、100万歩でどこまでいくのでしょうか。楽しみながら汗をかくことはとても大切です。

